

<p>第10回：コミュニティ・スクールにおける開かれた学校づくりの事例について</p> <p>第11回：学校管理下における事故等の事例と、学校安全・危機管理の必要性について</p> <p>第12回：地震・津波等自然災害に対する危機管理と地域との連携の事例について</p> <p>第13回：情報化社会におけるICT機器の普及と学校における効果的な活用事例について</p> <p>第14回：学校を取り巻く諸課題に対する認識とその解決についての思考形成 - 諸外国の教育事情等との比較を通して（レポート・プレゼン作成）</p> <p>第15回：学校を取り巻く諸課題に対する認識とその解決についての議論 - 諸外国の教育事情等との比較を通して（プレゼン発表と討論）</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>なし</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>磯田文雄著『教育行政』ミネルヴァ書房 2014年</p> <p>教育の未来を研究する会(編集)『最新教育動向2022必ず押さえておきたい時事ワード60&amp;視点120』明治図書出版(2021)</p> <p>文部科学省『諸外国の教育動向2020年度版』明石書店(2021/10/2)</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>定期テスト(50%) - 到達目標1. 2. 3</p> <p>レポート・プレゼン作成(30%) - 到達目標1. 2. 3、4</p> <p>発表および議論への参加度(20%) - 到達目標4</p>

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目（幼・小・中・ 高・養）	単位数： 2単位	担当教員名：齋藤 信 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p><b>【授業のテーマ及び到達目標】</b>          教育活動に役立つ心理学の基礎的な知識と考え方を身につけることを目的とする。具体的には「発達と学習および両者の関連」「それらが促進されるための幼児・児童・生徒・教師の心理および教育活動のあり方」の基礎を学ぶことを目的とする。</p> <p>(1) 発達と学習に関する、心理学の基礎的な知識と考え方を理解する。          (2) 発達と学習の関連、それらを教育活動に活かす方法に関する、心理学の基礎的な知識と考え方を理解する。          (3) 発達と学習が促進されるための、幼児・児童・生徒と教師の心理に関する、心理学の基礎的な知識と考え方を理解する。          (4) 発達と学習が促進されるための、教育活動のあり方に関する、心理学の基礎的な知識と考え方を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教育心理学は、心理学的なアプローチを通して、幼児・児童・生徒を理解し、教育活動における取り組みについて考えるものである。この授業では、教育活動に必要な心理学の基礎的な知識と考え方を身につけることを目的としている。具体的には「発達、学習、授業、パーソナリティ、動機づけ、学級集団、教育評価、幼児・児童・生徒たちに起こる問題、心理臨床、発達臨床」などに関する心理学を、教育活動に役立てようとする観点から学ぶ。授業の方法としては、講義形式と課題・提出物・ワークへの取り組みを、組み合わせた形で行う予定である。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 テーマ：イントロダクション          内容：「授業内容の説明」「教育心理学とは何か」を理解する。</p> <p>第2回 テーマ：発達の基礎          内容：「発達の基礎理論」「発達の要因」「発達段階と発達課題」を理解する。</p> <p>第3回 テーマ：認知・知能の発達          内容：「ピアジェの認知発達」「知能の発達」「発達と教育の関係（ピアジェ理論の応用と批判、ヴィゴツキーの理論）」を理解する。</p> <p>第4回 テーマ：関係性・社会性の発達          内容：「道徳性の発達」「友人関係・親子関係の発達」を理解する。</p> <p>第5回 テーマ：パーソナリティの発達          内容：「パーソナリティの基礎理論および発達の過程」を理解する。</p> <p>第6回 テーマ：児童期の発達          内容：「児童期の発達の特徴」「児童期の教育」を理解する。</p> <p>第7回 テーマ：青年期の発達          内容：「青年期の発達の特徴」「青年期の教育」を理解する。</p> <p>第8回 テーマ：学習のメカニズム          内容：「学習の基礎理論」「様々な学習・授業方法」を理解する。</p>			

<p>第9回 テーマ：記憶のメカニズム 内容：「記憶の基礎理論」「様々な記憶」を理解する。</p> <p>第10回 テーマ：欲求と動機づけ 内容：「欲求・動機づけの基礎理論」「様々な動機づけ」を理解する。</p> <p>第11回 テーマ：学級の構造と教師 内容：「学級集団の構造」「教師・生徒の関係」を理解する。</p> <p>第12回 テーマ：教育評価 内容：「教育評価の方法と活用方法」「教育評価の種類」を理解する。</p> <p>第13回 テーマ：生徒たちに起こる問題の実態と対応 内容：「いじめ・不登校の実態と対応」を理解する。</p> <p>第14回 テーマ：発達障害の実態と対応 内容：「自閉症、学習障害、ADHDの実態と対応」を理解する。</p> <p>第15回 テーマ：心理臨床と適応・不適応 内容：「ストレス」「様々な心の病と心理臨床」を理解する。</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト 特に指定しない。毎回授業テーマに沿ったプリントを配布する。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>櫻井 茂男（編）（2017）．改訂版 たのしく学べる最新教育心理学—教職に関わるすべての人に— 図書文化</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>（1）定期試験（60%） （2）課題・提出物（20%） （3）授業への取り組み（20%）</p> <p>（1）定期試験期間中に試験を実施する。試験は到達目標の1～3の観点に基づいて、基本概念や語句の理解度をもとに評価する。</p> <p>（2）課題・提出物は各授業回のテーマごとに出されるものである。これらについては、「コメントして返却」「優れたものや印象に残ったものを授業内で紹介する。」の対応をして評価に含める。</p> <p>（3）授業への取り組みは、普段の授業態度およびワーク・レポート・口頭発表などへの取り組みに基づいて評価する。これらについては、毎回の授業で確認して評価に含める。</p>

授業科目名： 特別支援教育演習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 川俣（藤原）理恵
			担当形態： 単独
科 目	教職の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>テーマ：障害や、生活背景等により特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒を理解し、そのような幼児、児童及び生徒が授業、学校、社会へ参加していくために必要な手立てを考える。</p> <p>1. 様々な障害について理解する</p> <p>2. 障害に合った合理的配慮について考えることができるようになる</p> <p>3. 他機関と連携しながら自立に向けた個別の支援計画を立てることができる</p>			
授業の概要			
<p>通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
授業の進め方、学習方法について。この授業で何を学ぶのかの概要を理解する。			
第2回：特別な支援を必要とする子どもたちの教育制度			
障害者権利条約やインクルーシブ教育システムなどの障がい児／者に関する制度や法律の理念や仕組みが、どのように変遷してきたのかについて理解する。			
第3回：特別な支援を必要とする子どもたちの学校			
特別支援学校・特別支援学級・通常学級などで行われる教育の特徴について学び、自立活動や通級による指導などの教育課程上の位置づけと内容を理解する。			
第4回：支援計画の立て方			
合理的配慮について考える			
第5回：発達障害について理解する①			
自閉スペクトラム症と知的障害の特徴を理解する			
第6回：発達障害について理解する②			
学習症と注意欠如多動症の特徴を理解する			
第7回：発達障害の支援について考える			
事例をもとに発達障害児の支援計画を立てる			
第8回：機能障害について理解する①			
病弱児、内部障害と肢体不自由の子どもたちの特徴を理解する			
第9回：機能障害について理解する②			
視覚障害と聴覚障害児の特徴を理解する			
第10回：機能障害の支援について考える			
事例をもとに機能障害の支援計画を立てる			
第11回：障害をもつ子どもとのコミュニケーションについて考える			
障害や母語の問題でコミュニケーションが難しい子どもたちとのやり取りの仕方を学ぶ			
第12回：集団生活で不適応をおこしやすい子どもについて考える			
事例をもとに、外国籍やLGBT等マイノリティの子どもたちの支援について考える			

<p>第13回：日常生活に困難を抱える子について学ぶ 事例をもとに、貧困や言語、虐待の問題を抱える子どもたちの支援について考える</p> <p>第14回：関係機関との連携 SC、SSW、特別支援教育コーディネーターについて学び、連携の重要性を理解する</p> <p>第15回：まとめ 講義で扱った内容のまとめと復習 定期試験</p>
<p>テキスト 指定しない</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『小学校学習指導要領（平成29年3月告示）』（文部科学省） 『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』（文部科学省） 『子どもの発達と学校〔第3版〕Ⅱ 特別支援教育への理解』（宮川充司・大野久・谷口明子・大野木裕明著、ナカニシヤ出版）</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>授業時の参加度（20%）レポート・課題（20%）定期試験（筆記）（60%）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度は、到達目標の3についてグループワークや授業の貢献度によって評価する。</li> <li>・レポート・課題は授業内容の理解度をもとに評価する。</li> <li>・筆記試験は到達目標の1～3について、基本概念や語句の理解度をもとに評価する。</li> </ul>

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目（幼・小・中・ 高・養）	単位数： 2単位	担当教員名：長澤 貴 担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義および編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業テーマ 「教育課程の意義と構造を理解し、カリキュラムマネジメントの方法を知る」</p> <p>到達目標：</p> <p>①学校教育で教育課程が果たす役割を学ぶと共に編成のための基本的な考え方を理解する。</p> <p>②子どもの実態、社会の状況等を踏まえて教育を展開するため、具体的な指導計画との関係性を理解する。</p> <p>③カリキュラムマネジメントの実施を通して教育課程、指導計画、授業実践等を改善するための考え方を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教育課程の意義および編成の基本を学ぶと共に教育課程変遷の歴史を振り返る。また、教育課程と各種指導計画および授業実践の関係を知ると共にカリキュラムマネジメントのあり方を検討する。現代の教育課題を教育課程に反映する考え方を学び、指導計画として具体化する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、教育課程の意義と構造の理解および編成の方法</p> <p>第2回：教育観の変遷と教育課程の歴史1（明治・大正・昭和期）</p> <p>第3回：教育観の変遷と教育課程の歴史2（平成・令和期）</p> <p>第4回：小学校学習指導要領が示す教育課程、指導計画（学習指導案）と教育実践の関係</p> <p>第5回：幼稚園教育要領が示す全体計画、教育課程、指導計画との関係と保育の実際</p> <p>第6回：カリキュラムマネジメントの視点から考える学習指導案（単元）、授業、評価</p> <p>第7回：子どもの実態、家庭の現状、情報リテラシー等を踏まえたこれからの教育課程の編成</p> <p>第8回：地域と共にある学校・園を目指す教科・領域横断的な教育課程の編成</p> <p>第9回：学校教育として育成をめざす資質・能力の具体的理解と教育実践事例分析</p> <p>第10回：就学前教育と小学校教育との接続とスタートカリキュラムの検討</p> <p>第11回：子どもの発達理解に立った学習指導案、本時の学習過程案の作成（グループ協議）</p>			

<p>第12回：本時の学習過程案の発表と討議（グループ協議）</p> <p>第13回：模擬授業の実施と評価</p> <p>第14回：海外の初等教育と教育課程およびその類型</p> <p>第15回：小学校の教育課程を中学校へつなぐ、教員の協働と児童・生徒の交流</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト 小学校学習指導要領（平成29年告示）、幼稚園教育要領（平成29年告示）</p> <p>その他必要に応じて資料を配布する。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>加藤幸次「教育課程編成論」玉川大学出版部、林秀雄「教育課程・保育計画」みらい</p>
<p>学生に対する評価 毎回の課題（事前、事後学修を含む）（20%）、プレゼン（指導案）（40%）、定期試験（40%）</p> <p>毎回の課題は、授業へ臨むための基礎知識の習得、問題意識の形成、授業の理解度、定着度について測る。プレゼンは、作成した指導案についての評価を行う。定期試験は、この授業の理解度、活用度を測るためのレポート試験を課す。</p>

授業科目名： 教育方法と技術	教員の免許状取得のための 必修科目（幼・小・中・ 高・養）	単位数： 1単位	担当教員名：長澤 貴 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） ・教育の方法及び技術		
授業の到達目標及びテーマ 1. 教育方法の基本的事項の理解及び授業構成や指導技術の方法を習得することができる 2. 主体的・対話的で深い学びについて理解することができる 3. 保育・授業実践を行うための基本的な技能を身につけることができる			
授業の概要 今日、教師の資質・能力の中でも、特に注目されるのが実践的指導力である。また、平成 29 年に告示された幼稚園教育要領や学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」を行うことが求められている。現在求められている授業のあり方はどのようなものであり、そして、どのように実践するのかをこの授業では探求する。こうした力量の基礎を身に付けるため、この授業では適宜、参加型授業の手法を取り入れ、小集団による課題調査・討論を実施する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 本授業の目的と概要等 第2回：教育方法について 意味と領域、教授中心と学習中心の観念、こどもの発達と教育方法 第3回：教育指導の原理と実際について 学習指導の意味と実際、授業のさまざまな形態 第4回：幼児期の教育における教育方法と技術について 教材研究と授業、評価 第5回：児童期の教育における教育方法と技術について 教材研究と授業、評価 第6回：幼稚園教育要領・学習指導要領と主体的・対話的で深い学び 第7回：模擬授業の実践 第8回：模擬授業の振り返りとまとめ 定期試験を行う			
テキスト：『ワークで学ぶ教育の方法と技術』,小室弘毅,齋藤智哉編,ナカニシヤ出版			
参考書・参考資料等：幼稚園教育要領,小学校学習指導要領			
学生に対する評価 (評価目安)：レポート課題 30% プレゼン(指導案の発表、模擬授業を含む) 40% 定期試験 30%			

授業科目名： 情報機器活用の理論 と方法	教員の免許状取得のための 必修科目（幼・小・中・ 高・養）	単位数： 1 単位	担当教員名：犬飼 和夫 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 ICTを活用した授業の理論及び方法を習得するとともに情報活用能力を身につける			
授業の概要 ICTを活用した授業の理論を理解し、ICTを実際の授業に活用していくための方法を学ぶ。 ICTを授業に活用する際のメリットとデメリットを理解し、子どもの学びにとって有益となる ICTを活用した授業のあり方を探求する。そして、実際にICTを活用した授業を行うことが できるようになることを目的とする。また、情報化社会において必要とされる情報活用能力、 情報モラルといった情報リテラシーについて学び、教育の場において情報リテラシーを指導で きるようにすることを目的とする。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 授業の目的、方法、計画、評価の方法 第2回：主体的・対話的で深い学びとICT 現代においてICTを活用した授業が求められる理由 第3回：ICTを活用した授業の環境 外部人材・機関との連携、ICTを活用した校務の推進 第4回：ICTを活用した授業の実際 特別支援教育におけるICTの活用、遠隔授業、学習評価 第5回：情報リテラシー 情報機器の利用法の指導法、情報活用能力、情報モラル 第6回：ICTを活用した授業の計画 ICTを活用した授業の指導案の作成 第7回：ICTを活用した授業の実際 ICTを活用した授業の模擬授業と振り返り 第8回：まとめ ICTを活用した授業の課題と展望-Society5.0を目指して- 定期試験			
テキスト：『小学校学習指導要領』,文部科学省,東洋館出版社,2018年 『幼稚園教育要領』,文部科学省,東山書房,2018年			
参考書・参考資料等 教育の情報化に関する手引（文部科学省 2020）			
学生に対する評価 定期試験では、ICTを活用した授業の理論と方法についての理解度を測る 50% その他指導案作成 25% 模擬授業 25% それぞれICTを活用した授業の理論と方法につ いての理解度を測る			

授業科目名：こどもの理解	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 川俣（藤原）理恵 担当形態： 単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	幼児理解の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：「こどもやこどもを支える保護者・同僚に対する理解を深め、具体的なスキルを身につける」</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解し、説明できる。</li> <li>2. 幼児理解の方法を具体的に理解し、説明できる。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものである。幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：幼児理解と評価の基本① 幼児理解の意義 幼児理解の意義と、基礎となる知識、態度、方法について理解する。</p> <p>第2回：幼児理解と評価の基本② 幼児理解の理論①（愛着理論、発達課題、認知発達理論等） 幼児理解のために必要な発達理論について理解する。</p> <p>第3回：幼児理解と評価の基本③ 幼児理解の理論②（生活や遊びの中での学びの過程） 幼児における、生活や遊びの中での学びの概要について理解する。</p> <p>第4回：幼児理解と評価の基本④ 幼児理解の姿勢（カウンセリング・マインド等） 幼児理解のために必要な姿勢・視点について理解する。</p> <p>第5回：幼児理解と評価の方法① 観察・面接の方法とその意義 幼児理解のために必要な観察・面接の方法の基礎とその意義について理解する。</p> <p>第6回：幼児理解と評価の方法② 検査の方法とその意義 幼児理解のために必要な検査の方法の基礎とその意義について理解する。</p> <p>第7回：幼児理解と評価の方法③ 記録・評価の方法とその意義 幼児理解のために必要な、幼児の記録・評価の方法の基礎とその意義について理解する。</p> <p>第8回：幼児理解と評価の方法④ 省察とカンファレンス 幼児理解のために必要な、省察とカンファレンスの基礎とその意義について理解する。</p> <p>第9回：幼児理解の実際①：各年齢児の特徴的な事例（個と集団の関係を捉える）</p>			

<p>幼児における年齢ごとの特徴と集団内での行動について考える。</p> <p>第10回：幼児理解の実際②：配慮の必要な子の理解 幼児期における配慮が必要な子を理解する視点とその対応について考える。</p> <p>第11回：幼児理解の実際③：幼稚園から小学校への接続 幼稚園から小学校への接続における要点とその意義について考える。</p> <p>第12回：保護者の心情と対応① 幼児理解のための関係形成 幼児の保護者と円滑な関係を築くための要点とその意義について理解する。</p> <p>第13回：保護者の心情と対応② 幼児理解から子育て支援へ 保育者による保護者に対する子育て支援の要点とその意義について考える。</p> <p>第14回：保護者の心情と対応③ 保育中のトラブルとその対応 保育中のトラブルに対する対応の要点とそれに伴う保護者への対応について考える。</p> <p>第15回：まとめ 幼児理解と保育者自身の発達（保育者・教育者としての効力感） 幼児理解の熟達と保育者自身の発達の関連について考える。</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>なし</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『幼稚園教育要領』（文部科学省、東山書房）</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館）</p> <p>『保育所保育指針』（厚生労働省、フレーベル館）</p> <p>『心理学マニュアル観察法』（中澤 潤・大野木裕明・南 博文著、北大路書房）</p> <p>『幼稚園教育指導資料第3集 幼児理解と評価』（文部科学省、ぎょうせい）</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験（筆記試験）を行う。</p> <p>授業時の参加度（20%）レポート・課題（20%） 定期試験（筆記）（60%）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時の参加度は、事前学習の状況や参加意欲、授業への貢献度をもとに評価する。</li> <li>・レポート・課題は授業内容の理解度をもとに評価する。</li> <li>・筆記試験は到達目標の1、2について、基本概念や語句の理解度をもとに評価する。</li> </ul>

授業科目名：こどもと保育 カウンセリング	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 川俣（藤原）理恵 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：「子どもの発達にあった適切な専門職としての関わり方を考える。また保護者とのかわりについても言及する」</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育・保育現場における教育相談の意義や理論を理解し説明できる。</li> <li>2. ロールプレイなどを通して、教育相談の技法を習得し、保護者や子ども支援活動に活用できる。</li> <li>3. 教育・保育現場における教育相談の事例を通じて、その内容や方法を理解し、専門機関との円滑な連携（コンサルテーション等）のあり方について理解し説明できる。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>昨今の幼児、児童をとりまく「こころ」の問題はますます複雑化・深刻化している。そのような中で、園や学校現場においては、スクールカウンセラー等の配置の有無にかかわらず、教職員全てに教育相談活動への取り組みが求められる。目の前にいる幼児、児童が何に困り、どのような支援が必要かということを理解する見立てから始まり、その支援方法やカウンセリングなどを具体的に学び、現場に出て実際に健康相談ができるように、理論と実際に学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 保育・幼児教育における教育相談の意義と課題について学ぶ</p> <p>第2回：妊娠期・産褥期のライフサイクル課題と対応 妊娠期・産褥期のライフサイクル課題と対応について、事例を通して考察する</p> <p>第3回：乳幼児期のライフサイクル課題① 母子相互作用の重要性と愛着について学ぶ</p> <p>第4回：乳幼児期のライフサイクル課題② 虐待・不適切な養育について、事例を通して支援方法を考える</p> <p>第5回：乳幼児期のライフサイクル課題③ 発達障害の子どもたちの抱える難しさについて考える</p> <p>第6回：乳幼児期のライフサイクル課題④ 多国籍・異文化の子どもと家族の現状を知り、どのような支援ができるかを考える</p>			

<p>第7回：教育相談に必要なカウンセリングの知識①          カウンセリング理論について学び、カウンセリングに臨む態度(受容と共感)を身につける</p> <p>第8回：教育相談に必要なカウンセリングの知識②          カウンセリング技法（傾聴、質問等）を学び、ロールプレイを行う</p> <p>第9回：教育相談の実践①          保護者との面談のポイントを理解し、事例検討を行う</p> <p>第10回：教育相談の実践②          発達的な問題への対応の事例検討を行う</p> <p>第11回：教育相談の実践③          情緒的な問題への対応の事例検討を行う</p> <p>第12回：教育相談の実践④          どのような育児ストレスがあるかを理解し、コーピングについて考察する</p> <p>第13回：教育相談の実践⑤          外部連携の重要さとコンサルテーションについて学ぶ</p> <p>第14回：教育相談の実践⑥          幼保小連携について考え、不登校やいじめを防ぐための対策を考察する</p> <p>第15回：まとめ          15回の内容をふり返り、教育者・保育者として今後身につけたい知識や技術について考える</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト          なし</p>
<p>参考書・参考資料等          『やさしく学べる保育カウンセリング』（大竹直子、金子書房）</p>
<p>学生に対する評価          授業時の参加度（20％） レポート・課題（20％） 定期試験（筆記）（60％）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度は、到達目標の3についてグループワークや授業の貢献度によって評価する。</li> <li>・レポート・課題は授業内容の理解度をもとに評価する。</li> <li>・筆記試験は到達目標の1および3について、基本概念や語句の理解度をもとに評価する。</li> </ul>

## シラバス：教職実践演習

教職・保育実践演習		単位数：2単位	担当教員名：教職担当教員：伊東直人 教科担当教員：真下賢一、大久保（山口）友加里		
科目	教育実践に関する科目（教職実践演習）				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握	○	学校現場の意見聴取	○
受講者数	20人				
教員の連携・協力体制					
<p>小学校教員・校長、教育行政の経験がある伊東が教職担当教員として、また、造形、音楽の授業を担当する真下、大久保（山口）が教科担当として授業を行い、計画に示した内容を指導する。各回とも主になる教員1名と少人数討議等において補助的な教員2名の体制で指導する。7回、15回は全体で幼稚園・認定こども園長、保育園長（もしくは幼稚園教諭・保育士）を招聘して現場における実践的な話を聞いて学ぶ。</p>					
授業のテーマ及び到達目標					
<p>教員になるための総合演習科目として位置づける。大学の学びや教育実習を通してこれまでに得た教育理論と技能を現場（幼稚園等）で活用する方法を理解し、教員になるうえで自己の課題を明確にする。ロールプレイングや事例研究、現地調査、模擬授業を通して得られた成果を、ICTを活用したグループ発表・ディスカッションにより、さらなる幼児理解や指導力を身につける。また現職教員から教育現場における様々な課題について講話を受け、教育的愛情をもった教員としての役割や使命・責任について討論する。</p>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育に対する使命感と情熱を持ち、子どもの成長を第一に考え、適切に行動することが身につけている。</li> <li>2 教員としての自覚と責任を持ち、組織の中で目的や状況に応じた適切な言動をとることができる。</li> <li>3 豊かな人間性を持ち、子どもと信頼関係を築きながら、子どもの発達状況に応じた適切な指導ができる。</li> <li>4 指導領域を理解し、子どもの発達を促す適切な環境を整え、発達の状況に応じた指導をすることができる。</li> </ol>					
授業の概要					
<p>教職・保育実践演習は幼児・保育教育専門科目の履修を踏まえ、自らの学びを振り返り、幼児教育者として必要なディプロマポリシーの「課題解決力」「思考力・判断力」「実践力」「コミュニケーション力」を修得したことを確認する演習である。</p> <p>幼児教育者の役割、職務内容、子どもに対する責任、対人関係能力や社会性、学級経営の方法、保育指導の方法、履修カルテの作成と評価、幼児教育・保育をめぐる現代の課題、保・幼・小の連携、虐待の問題等幅広い課題に取り組む。</p> <p>授業では、学生自身がICT機器を活用して、グループ発表、討議、ロールプレイングや事例研究、現地調査、模擬授業、現職教員からの学びなど多様な方法で行う。また、写真や映像、配布文書や各種行事計画など教育現場の資料を活用する。</p>					
授業計画					
第1回 全体会（オリエンテーション）、履修カルテ及び教育実習の振り返り		（主：伊東、副：真下、大久保（山口））			
第2回 「講話：今の時代に求められる教育」とディスカッション		（主：伊東、副：真下、大久保（山口））			
第3回 領域「言葉」言葉遊びを主題とした保育の計画と模擬保育		（主：伊東、副：真下、大久保（山口））			
第4回 ICT機器を活用した表現（音楽）の指導実践と模擬保育		（主：大久保（山口）、副：真下、伊東）			
第5回 ICT機器を活用した表現（造形）指導実践と模擬保育		（主：真下、副：伊東、大久保（山口））			
第6回 Wordを使ったクラスだよりの作成と発表		（主：伊東、副：真下、大久保（山口））			
第7回 「昔からの遊び」を主題とした保育の計画と模擬保育		（主：真下、副：伊東、大久保（山口））			
第8回 「(仮題) 幼児教育者の仕事内容と使命」		外部講師による講演（1）			
第9回 地震等自然災害及び事故等に対応する園内・園外の安全管理と避難訓練の実際		（主：伊東、副：真下、大久保（山口））			
第10回 園外保育を生かした表現活動の計画と実践		（主：大久保（山口）、副：真下、伊東）			
第11回 ICT機器を活用した特別な配慮の必要な幼児の表現（造形）の計画		（主：真下、副：伊東、大久保（山口））			
第12回 教員・保護者・地域とのよりよい関係づくりの事例調査		（主：伊東、副：真下、大久保（山口））			
第13回 幼児教育者の役割と責任―虐待・貧困等教育課題の実際と対応事例調査		（主：伊東、副：真下、大久保（山口））			
第14回 ICT機器を活用した特別な配慮の必要な幼児の表現（音楽）の計画		（主：大久保（山口）、副：真下、伊東）			
第15回 「(仮題) 小学校との連携を踏まえたこれからの幼児教育のあり方」		外部講師による講演（2）			
定期試験は実施しない					

テキスト：文部科学省「幼稚園教育要領解説」平成30年3月 フレーベル館

内閣府ほか「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」平成30年3月フレーベル館

参考書・参考資料等：厚生労働省「保育所保育指針解説」平成30年3月フレーベル館

学生に対する評価

発表や課題の内容や理解度(30%)、ディスカッション等に取り組む態度(30%)、模擬授業や役割演技等の実践力(40%)